

令和7年度 第3回図書館協議会 会議録

- 日 時 令和8年3月3日(火) 15:30~16:30
- 会 場 市立図書館 会議室
- 出席者 委員
会長ほか5名
事務局
教育部長、教育部次長、読書推進課長、読書推進担当主査、
学校図書館・施設計画担当主査
図書館長(指定管理者)
- 傍聴者 なし

<次 第> 別紙(事前送付)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 部長挨拶
4. 議 題
 - (1) 報告事項 令和7年度 図書館事業実績報告について
 - (2) 協議事項 ア 令和8年度 図書館の事業計画(案)について
イ 図書館改修基本計画(案)について
5. そ の 他
6. 閉 会

◆質疑

4. 議題 (1) 報告事項 令和7年度 図書館事業実績報告について

A委員:

移動図書館のメインターゲットは、子どもの授業時間と重複している。時間を遅らせ放課後にできないか。

事務局:

図書館に行きたくても行けない高齢者等の年代を想定している。

事務局:

今年度の施行実施では、人が集まっているところに車を置けなかった部分もある。一般市民がターゲットだが、意見を踏まえ、試験的な実施もできるのではないか。

事務局:

イベント的に学校に行くということも考えられる。

B委員:

中学校のニーズとしては、学校図書館で足りているように思う。放課後も中学生は忙しい状況。

A委員:

中学生でも、土日に移動図書館が来れば、集まる場として読書のきっかけになるのではないか。

B 委員：

土日に学校の敷地内でイベントを行う場合、職員がいなければならず、難しさがある。公園等での実施について学校でチラシを配る等であればよいと思う。

C 委員：

先に取り組んでいる例を参考にできたらよい。

4. 議題 (2) 協議事項 ア 令和 8 年度 図書館の事業計画 (案) について

D 委員：

外国人に向けたサービスの推進の具体的な内容は。

事務局：

英語に限らず、様々な言語を使用する人が恵庭市でも増えている状況。やさしい日本語や多国語で書かれたものなどを、図書館と企画課で連携しながら選書している。今年度は館内に多言語コーナーを設置した。

D 委員：

外国の方のコーナー利用はどのくらいあるか。

事務局：

本館より恵庭分館の利用が多い。留学生や技能実習生などが手に取って見ている。貸出回数に反映するほど来るわけではないが、少ないながらも利用者はいるので、そのようなコーナーを作るのは大事。

事務局：

本館では、先生の引率で留学生が団体に利用者カードを作りに来るなど、図書館を広めてもらっている。設置したコーナーも多くの利用とはなっていないが、コーナーがあることで一般利用者も興味を持ち、取り組みについて理解してもらえるのではないかと考える。

事務局：

読書推進計画の新規事業として、外国人に向けたサービスの推進を入れた。市の方針としても多文化共生社会があり、次年度から始まる総合計画の目玉となっている。

E 委員：

技能実習生と恵庭分館に行くことが多いが、借りるのはハードルが高いようだ。司書を交えて話をするなどしているが、まずはそこから考える。ただ、留学生のいる医療大学の図書館が充実していることから、市の図書館まで借りに来るという感じではない。取り組みが外国人のニーズとマッチしているか、調査してほしい。

事務局：

利用者カード登録時に国籍の記載を求めているため、外国人の利用統計を抽出することができない状況。どのように成果を確認すればよいのかは今後考えていきたい。

4. 議題 (2) 協議事項 イ 図書館改修基本計画 (案) について

E 委員：

屋外読書空間との一体化のことと思うが、建物が倍になるように捉えられている場合があるようだ。

事務局：

資料の 48 ページにイメージが示されている。次年度に事業者要求水準書を作成し、イメージをベースに提案をもらい事業者の選定を行うことになるので、このとおりにはならない可能性がある。43 ページにも増築位置の比較が示されており、エントランス東側・施設南側・2 階バルコニー等が検討されている。バルコニーは荷重計算がまだだが、大丈夫であれば中央公園を見渡すことができ、ガラス張りにする等の話もある。ただ、倍ぐらいになるというのは現実的ではない。公園の敷地には法的に増築することはできない。

事務局：

43 ページに載っているバルコニーについては、上屋をつけるのか、ひさしのみなのか、冬はどうするのか等、どのようにすれば希望と合うか、提案を受けることとなる。

事務局：

バルコニーは静のゾーンとなっているが、少し変えてカフェエリアになれば雰囲気がよくなるように思う。

A 委員：

48 ページ、カフェ・物販スペースが増築されるとあるが、どんな業者が入るのか。49 ページ、実習室・会議室とあるが、あいの里の教育大では、ラーニングcommons（大学図書館内の学習空間）として、ホワイトボード・椅子・テーブルがたくさん置いてあり、学びの場となっている。そのようなコーナーを設置すると近隣の学生が足を向けるのではないか。

事務局：

図はイメージであり、選定された業者からの提案を受けてからのこととなる。カフェも、業者が入る、指定管理者が運営する等、色々考えられる。来年度にこれらを整理していく。学びの場については、静のゾーンと動のゾーンの間として、アイデアのひとつとなるのではないか。

A 委員：

石狩の図書館は入り口にカフェがある。恵庭分館に隣接するコンビニのような形も使いやすい。そういった選定も進んでいるかと思って聞いた。海外には寝転んで本を読めるところもあり、そこまで行けば恵庭ってすごいな、となるのでは。ホワイトボードは人が集まるきっかけになる。改修はいい機会である。

D 委員：

令和 11 年度の工事の際、図書館は開館するのか。

事務局：

それも業者提案になる。短い工期であれば完全閉館が考えられるが、利用者ニーズも考慮し、部分開館や分館の活用なども選択肢となる。

事務局：

本館向かいの RB パークの貸室に一部を移動する提案も考えられる。

事務局：

そのようなことも要求水準の中に入れていく。

終了